

2021年1月5日

## 「辛丑の年」

公益財団法人 国際通貨研究所  
理事長 渡辺 博史

明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスという大災禍に見舞われ極めて深刻な状況に世界が陥りましたが、今年はどうなるかの手がかりを探るべく、自称「恒例」の十干十二支を遡る作業をして行きましょう。

今年は十二支の「丑 うし」年で、十干では「辛 かのと」にあたり、「辛丑 かのとうし」年ということになります。「丑」は十二支の二番目、「辛」は五行説の木火土金水のうちの「金」の弟（陰）ということで8番目。十干十二支の組み合わせの60干支でいえば、38番目にあたります。

辛丑年の運気は如何、とかいう紹介はしません、というか行方能力が無いので、単に過去の辛丑年の出来事を見て行きます。

まずは直近の60年前の1961年を見ると、J・F・ケネディが米国大統領に就任しました。我々は、彼の登場をリアルタイムで見ていることから、米国の大統領などの政治家は日本に比べて若いのだという刷り込みがあるので、昨年の大統領選挙の「老人対決」には違和感が拭えませんでした。それを意識したかどうかは分かりませんが、バイデン政権の閣僚、高官の年齢構成はかなり若くなっています。ケネディはその在任中、キューバ危機を迎えますが、その東西冷戦の緊張度ピークの象徴となるベルリンの壁が、この年に建設されています。全くの雑学ですが、ベルリンを二分する壁に設けられているいくつかの関門の一つであるチャーリーズ・ポイントを通過するときの動きは「東⇄西」移動ではなく「北⇄南」の移動になります。宇宙開発競争が進み、ロシアはガガーリン搭乗のボストーク1号を打ち上げました。また、この年には円周率が10万桁まで計算され（レンチ、ジャンクス）たり、103番目の元素であるローレンシウム（Lr）が発見されました（ギオルソほか）。

国内に目を転じると、現在のこのコロナ禍でも利益を大きく確保している日本の最強企業であるトヨタが国民車「パブリカ」を発売しています。また、最近では日本人の影が薄くなり、「ウインブルドン化」が進んでいる大相撲の世界には柏鵬時代が到来し、柏戸、大鵬がともに横綱に昇進しています。最近、大鵬のお孫さんが関取に昇格（王鵬幸

之介) したというニュースに接し、隔世の感を味わっています。また、ジェンダー問題の一里塚とも言われるアンネナプキンの発売も行われています。

1901 年を見ると、この年にノーベル賞が初授与されています。当初は、5つの賞(物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、平和賞)しかなかったのですが、その後1968年に経済学賞が付加され、6賞に増えています。また、ランドシュタイナーが人間にABO血液型という差異があることを発表し、63番目の元素であるユーロピウム(Eu)が発見されています(ドマルセー)。日本では、環境問題の嚆矢となる足尾銅山の鉱害を田中正造が取り上げて、天皇に直訴をしています。

産業面でいうと、日本では官営八幡製鉄所が操業を開始し、くしくも米国ではJ・P・モルガンがUSスチール社を創設しています。さらに、マルコーニが大西洋をまたぐ無線通信に成功し、日本では電報通信社(現電通)が設立されています。また、日本女子大がこの年創立されています。この年には、昭和天皇が生誕されたほか、ディズニー、スカルノ、梶井基次郎、柳屋金語楼、田谷英二、ルイ・アームストロングなどが生まれています。

1841年をみると、英国の総選挙で野党保守党が大勝したほか、同国で風刺漫画雑誌「パンチ」が創刊されています。また、この年、ルノワール、ドヴォルザーク、クレマンソー、伊藤博文などが生まれています。

1781年は、ヨークタウンの戦いなど、未だ米国の独立戦争のさなかでありました。同年、ハーシェルが天王星を発見したほか、学術面では、カントの「純粋理性批判」の初版が出版され、中国では最大の漢籍叢書である「四庫全書」の完成を見えています。科学面では、プリーストリーが水素と酸素を燃やして、水を創る実験に成功しています。また、蒸気機関車の実用化を進めたスティーブンスンや、シンガポール開発をしたラッフルズ、それに頼山陽などが生まれています。

1721年には、享保の改革に取り組んだ徳川吉宗が全国人口調査を開始し、それによれば当時の江戸の都市人口は世界一であった。また、江戸城外に目安箱を設置した。また、ピョートル大帝への皇帝号授与によりロシア「帝国」が成立し、それに先立ってロシアはニスタット条約でスウェーデンからバルト海沿岸領土の広域割譲を受けるなど大北方戦争を勝利のうちに終結しています。やや毛色が違いますが、この年、ポンパドール夫人が生まれています。

そして、ここら辺で打ち止めにしますが、1661年には、東西の「中華思想」の国で大きな動きがあり、中国では清朝第四代の康熙帝が即位し最盛期への道筋を付け、フランスではルイ14世が親政を開始して太陽王と呼ばれる隆盛に向かうなど、政治的エポックの年になっています。また、経済面で特筆すべきは、ストックホルム銀行が史上初めての紙幣の発行を開始したことです。また、アジアの動きをみると、徳川光圀が水戸藩第二代藩主となり、鄭成功が台湾ゼーランディア城の包囲を行い、またインドではボンベイ地域をポルトガルがイギリスに譲渡しています。

と、駆け足で見てきましたが、ご参考になったでしょうか。

新型コロナウイルスの脅威はまだ暫くなくならないと思いますが、丑という文字はもともと「からむ=芽が種子の中で伸びられない状態」を意味するようで、若干転じて「新たな芽生え、発展の前触れがある」との含意があるようですから、「ゆっくりとしか進まずに我慢が必要だが…」、という補足が付いた含意ではありますが、希望をもって対応して行ければと思っています。

以上

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882, Facsimile: 81-3-3273-8051

〒103-0027 東京都中央区日本橋本 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。